

科目名		救急救命処置概論Ⅲ			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	8回	時間数	15時間	(1単位)	配当学年・時期	救急救命士科2年		必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

気管挿管の目的・適応を理解し、手技が確実の出来る。
薬剤投与や輸液を目的とした静脈路の確保。
薬剤投与の目的、適応が理解でき、手技が確実に出来る。
血糖想定、ブドウ糖溶液投与の適応、適切な判断能力を身につける。
ショックの病態の鑑別、心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の適応、適切な判断能力を身につける。

〔授業全体の内容の概要〕

導入講義後、手技のデモンストレーション。
各班で血糖測定、心肺機能停止前の輸液、気管挿管、薬剤投与の手技練習。
各処置を含めての想定訓練

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

気管挿管の目的・適応を理解し、手技が確実の出来る。
薬剤投与や輸液を目的とした静脈路の確保。
薬剤投与の目的、適応が理解でき、手技が確実に出来る。
血糖想定、ブドウ糖溶液投与の適応、適切な判断能力を身につける。
ショックの病態の鑑別、心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の適応、適切な判断能力を身につける。

回数	講義内容
1	薬剤(アドレナリン)について復習。薬理作用について
2	薬剤投与手技・復習
3	薬剤投与手技。実習班での手技練習。
4	上気道～下気道解剖の復習。気管挿管、気管内吸引導入講義
5	気管挿管手技
6	気管挿管手技。実習班での手技練習
7	気管内吸引手技。実習班での手技練習
8	気管挿管、薬剤投与想定訓練
	定期筆記試験

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
第10版救急救命士標準テキスト		へるす出版

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

終講時試験。履修規定に準じる。